

社会教育委員会議(第1回) 会議録

会議名	第1回 社会教育委員会議
開催日時	平成20年6月3日(火) 13時30分から15時
開催場所	教育委員会 大会議室
出席者	<p>【委員】星野委員長、蒲田副委員長、石井委員、梅谷委員、遠藤委員、大橋委員、木村委員、小林委員、近藤委員、関口委員、竹内委員、根本委員、福田委員、藤川委員、増田委員、松原委員、吉田委員(17名)</p> <p>【担当職員】荒井生涯学習部長、井上課長(社会教育課)、山根課長(学び推進課)、深山館長(図書館)、斉藤課長(文化課)、石田館長(鳥の博物館)、竹谷課長(体育課)</p> <p>【事務局】鷺見課長補佐、斉藤</p>
公開・非公開	公開
傍聴人及び 発言者	傍聴人なし

平成20年度 第1回社会教育委員会議 会議録

【挨拶】

委員長

委員の皆さまには3年～6年間に渡り、我孫子市の社会教育の振興にご協力いただきありがとうございました。また、今回は、事務局側で用意しましたアンケート調査にご協力をいただきありがとうございました。この度、社会教育委員条例を改正して、委員定数は現在の24人から16人になりますが、今後もさらに、社会教育委員会議を充実させていきたいと思っております。

教育長

社会教育といいますと、子どもから青少年、芸術、文化、またスポーツ・レクリエーションに渡り、学校教育以外の全ての案件になります。平成16年4月には、社会教育推進計画を策定しております。今後もそれに従ってさらに社会教育事業を進めてまいります。

湖北地区図書館建設、旧市民会館への対応について等、問題は沢山ございますが、これからも皆さま方のご意見やご提言をお願いします。

【協議内容】

1 社会教育委員条例及び規則の改正について

社会教育課長

現在の社会教育委員条例は、平成14年7月からのもので、2期6年が経過しました。財政的な厳しさが増す中、市民に開かれた行政を目指して、行政評価システムを取り入れて、全ての市の事業を公開し、パブリックコメントなど市民の声を積極的に市政に取り入れる体制づくりに努めてまいりました。この様な情勢を受けて、社会教育委員の体制についても、現行の社会教育委員条例及び規則見直しを行い、改正案を6月議会に提案することにしました。主な内容の変更点は、3つございます。

- (1) 条例第3条の委員の定数を24人から16人としました。
- (2) 部会について、現行では、第6条の4つの専門部会のいずれかに属するものとなっておりますが、これを、「必要に応じ部会を置く事ができる」とする案に変更しております。
- (3) 開催回数について、全体会と専門部会をそれぞれ、年3回以上開催すると規定しておりますが、改正後は、回数を規定しておりません。

社会教育委員会議で、特に研究・調査をして、突っ込んだ意見をいただきたい案件が生じた場合(委員長が認める場合)は、臨時にその16人の社会教育委員の中で、数名による部会を立ち上げて、一定期間、研究、調査をして報告していただき、それをたたき台として16人全員の意見をいただくという仕組みになります。

このような改正をする理由は、会議のスリムアップを図るためです。現行の社会教育委員条例が今の形になったのは、平成14年度からです。14年度以前は、15人の構成で社会教育委員会議は存在しておりました。また、図書館協議会、公民館運営協議会、スポーツ審議会などの審議会組織が各課につく形で複数ありました。それを14年度の時点で6つの審議会を統合し、社会教育委員会一つに統合したということです。個々の審議会組織を廃止した代わりに、その機能を持たせるために専門部会を作りました。

それから6年間が経過し、今、市では、市民の声を行政に反映させる仕組みができてきました。また、特定の大きな事業を検討する際には、その事業に合わせた専門の委員会を各担当で立ち上げて検討するようになっていきます。社会教育でも必ずしも、専門部会と全体会の二重構造にしなくても、各分野を意識した委員構成にし、必要に応じて専門部会を立ち上げられるようにしておけば、普段は全体会ひとつで審議会的な機能を果たしていけるのではないかと考えました。

アンケートにもありましたが、全体会議で時間の制限がある中では、全員の意見を伺うことが難しい状況にありますので、会議を運営しやすくするために、人数を16人にしました。16人の委員構成については、公民館、青少年、文化、スポーツ、図書館、鳥の博物館、各分野の社会教育団体からの推薦者、学校関係者、学識経験者と公募委員を考えております。

2 社会教育委員の募集について

公募委員の募集のお知らせについては、6月1日号の広報でおこないます。公募委員以外の委員については、これからの取り組みとなりますが、人数を減少させた中で、生涯学習部の各課と調整しながら、社会教育団体を通して推薦を受けるということとなります。

3 社会教育委員会議を振り返って

委員：施設等も理解することができ、ボランティア活動の勉強になりました。また、スポーツ・レクレーションを通して、体育課の方とも話し合いができて、良い経験となりました。

委員：社会教育推進計画の策定に携われたことや施設見学、研修、成人式など、委員でなければ、知ることができなかったこと等を経験することができて、よかったと思います。

委員：社会教育推進計画についてですが、良いことが沢山書いてはありますが、どこまでできているのか、どこまでできるのか、具体的にどうするのか？誰かがするのはなく、自分でしなければいけないことだと確認する有効的な3年間だったと思います。

その計画の中にあります、社会の宝でもある子どもたちが生きる力や夢と希望を持つような様々な取り組み、地域の学習活動をより豊かにする上で貢献しうるように人材育成、学習関連情報の提供をおこなうという社会教育の理念を地域で伝える必要がある

と痛感しました。市民と行政の協働についてですが、協働という言葉を使うことに疑問を持ちつつ、子どもたちを囲む大人が何をどんな風にしていけばいいのかを感じる日々でした。

委員：品格のある社会教育を担う人材育成は、委員一人一人が、それぞれの地域での活動を高めていくことが大事ではないかと思います。また、我孫子市内の大学、研究所、NPO、NGO等の力を人材育成等に活かすシステムづくりをしていただければと思います。

委員：スポーツのこと、近隣市の社会教育について勉強させていただきました。それを周りの人にどのように伝えるべきだったか反省しております。

委員：我孫子市には、お金がないように思いますので、赤ちゃんから、お年寄りまで全員をカバーしようと思えば、市民全員が考えていかなければいけない問題だと思いました。

委員：我孫子市は、お金をかけずに、手間隙をかけ、社会教育を充実させていると思います。青少年育成団体に所属している関係で感じたのですが、元校長先生など、含蓄のある方などが、過去の学校現場では、できなかったことをこういう社会教育の場に入って、学校教育に生かしていただければ、よいのではないかと思います。

委員：スポーツ以外の社会文化的な勉強をすることができよかった。

委員：アンケート集計表P3の19の通りですが、要約しますと、社会教育委員を活用してほしい。主体的に取り組み、問題に対し達成感を持たせるべきだと思います。

委員：社会教育委員に何を求めているのか理解できず、達成感がないことが反省点です。委員の人数を減らすのではなく、ボランティアにしてはどうかと思います。親の再教育事業に真剣に取り組むべきです。

委員：青少年相談委員の経験から、私もやはり、親教育をすべきだと思います。委員になり、住みやすい我孫子のまちづくりのために、毎週土曜日の朝、湖北駅近辺のごみ拾いをさせていただきながら、子どもたちに声をかけております。

委員：親、家庭、社会教育の重大性を痛感しております。それと、社会が殺伐としている現在、社会教育と学校教育の連携もスムーズにすべきです。

委員：子どもが小学3年生なので、皆さまより、低い視点で、見ることができたと思います。その中で、行政の方の努力が見えてきたことと、特に、図書館の職員の方の負担

が大きくなっていると実感しました。親の教育という点で、公民館等の家庭教育も必要だと思えます。我孫子を住み続けたい街にしたいと思えます。

委員：特に、青少年に対して、経験だけではなく、意識を高めて社会に役立てたいと思えます。

委員：平成10年の「新しい時代を拓く心を育てるために」という文部省の中央教育審議会の方針案を見て、社会教育に興味を持ち、地域の子ども、青少年をどのように育成するかを考えさせられました。委員だけではなく、例えば、手賀沼課にある自然環境レンジャーに関わっているプロフェッショナルな方等にも携わっていただき、地域社会をしっかりとさせる必要があると思えます。また、宗教習慣、生活習慣も見直す必要があるのではないかとと思えます。

委員：我孫子市にあるアマチュアオーケストラ我孫子フィルに所属しておりまして、30年間、途絶えること無く活動できたということは、我孫子市の文化に対するサポート力を感じ、感謝しております。このことも、やはり、社会教育の一部だと思えます。子から孫へと受け継がれていけるような発表の場としての市民会館を建てていただきたいと思えます。

委員：立場の違う方が、いろいろな発言ができることは、我孫子市の社会教育を考える上で、大切です。シルバーの方々も含め、社会教育委員も一緒になって作って成長できれば良いと思えました。事前に、市内の施設見学に行くことができ、ある程度理解した上で、会議に挑めたことが重要であり、良かったと思えます。人権研修会等で学べたことが自分自身のためにもステップアップに繋がりました。地域を生き生きさせるためにも社会教育委員会議を活性化させてほしいです。

委員長：我孫子市にとっては、学習場所の確保のためにも、市民会館、図書館の整備が最重要課題です。図書館においては、職員の方の協力もあり、特に、これだけの貸出があるということは、素晴らしいことだと思えます。会議のことについては、アンケートにも書いていただきましたが、委員定数が多いためか、発言の時間が短くなり、時間を延ばしても良い結果にはなりませんでした。事前に部会で詰めもらい、全体会で、共通理解を得る程度しかできなかったです。市の社会教育関係の方には、綿密な事業計画をしていただき、我孫子市の社会教育に大きな成果を上げつつあると思えます。

事務局：東葛管内の担当者会議に出席し、意見交換してみましても、我孫子市の社会教育は進んでいると感じます。社会教育委員の方の後押しのおかげかと思えます。生涯学習というものがクローズアップされる中で、家庭環境の変化、子どもたちの事件などを見ても、やはり家庭教育や社会教育の重要性を感じます。任期が切れましても、今後も地

域の中で、会議で出た成果、考えを地域で活かしていただければと思います。

文化課長：昨年度の手賀沼文化拠点整備計画に続きまして、杉村楚人冠邸を買収し、21年度からは、関係部署と文化拠点のネットワーク作りをして、様々な事業を着実に実行していきたいと思います。

学び推進課長：公民館には、家庭教育の講座など、親の教育が大事だご指摘いただきありがとうございました。

図書館長：図書館に異動して、改めて、図書館事業の多さに気が付きました。

アビスタの図書館では、開館時間の拡大の事業により、平日は1,200～1,500人、土日祝日で2,500の方が、来館しています。資料の充実として40万冊で、冊数もさることながら、図書館の特徴として、鳥のコーナー、男女共同参画、まちづくりのコーナー、郷土資料コーナーを設けており、市民の方が発行した書物なども所蔵しています。最近は学校図書室との連携ということで、学校図書室の整備をしてきました。今後さらに、学校に対して、どのようなお手伝いができるか考えていきたいと思います。情報化推進にも力をいれ、端末から直接予約ができるシステムをつくりました。また、家庭のパソコンから図書館のホームページに入り、図書の予約をする利用者も多くなっています。

さまざまなサービスをしていると同時に、課題も非常に大きいといえます。新しい三つの課題として、一つに布佐分館の老朽化による空調機を取替え、二つに移動図書館の民間への業務委託、三つ目に湖北地区図書館建設の基本計画の着手があります。

鳥の博物館長：鳥の博物館は、今年の5月22日で満18年を迎え、5月4日には100万人目の入館者を迎えました。これからも、皆さんが楽しめる空間を作っていきたいと思います。皆さんにおかれましても、健康に気をつけて、これからも社会の場でご活躍いただけたらと思います。

体育課長：皆さまのご協力をいただき、4月20日につくし野多目的広場を開設しました。五本松運動広場の整備も実現に近づいています。多くの年代の方が生涯スポーツを楽しめるようにスポーツの普及に尽くしていきたいと思いますので、ご協力お願いいたします。

4 お礼の言葉

生涯学習部長：我孫子だけではなく、日本全体がおかしくなり、変化が目まぐるしい中、社会教育に従事している私としては、益々社会教育の大切さを強く感じております。皆さま方のご意見や地域で活動されていることが社会教育となっていると思います。アンケートも活かして、今後もさらに充実したまちづくりを目指していきたいと思います。

人づくりのためには、学校教育、社会教育が大事ですので、委員の方も、それぞれの

分野で活躍しながら、出前講座の講習会や、社会教育の関係では、子ども関係事業として「遊びの達人教室」「元気フェスタ」「子どもまつり」「あびこ発見・ウォーク」等もしておりますので、私達を助けていただきたいと思います。2010年には、千葉県全体で、国民体育大会を開催します。我孫子市では「なぎなた大会」をしますので、ボランティア等していただければと思います。

5 その他

6月24日(火)の情報交換会について

【閉 会】

事務局

社会教育委員の皆さんは、6月末を持ちまして委員任期は終わりますが、これからも我孫子市の社会教育の発展の為に協力いただければと思います。有難うございました。

以上